横浜市立朝比奈小学校

学 校 だ よ り

令和元年９月３０日

第７号

「電車に乗るときのマナーを教えてげよう」
「トイレに行きたくないか聞いてあげよう」
「お弁当の時に、時間が無くなったら食べられるだけでいいよと言ってあげよう」

校長　神田　敏之

１・２年生合同の遠足で野毛山動物園へ行きました。事前の取り組みの中で２年生は、次のようなめあてをもって活動しました。

○ 楽しい遠足にするために、１年生に何をしてあげたらいいか考えて過ごす。

○ 動物や自然とふれあって、みんなで楽しく過ごす。

○ 安全に気を付けてマナーを守って過ごす。

動物園では、１・２年生が混じったグループで見学をする時間がありました。特に２年生では冒頭の言葉のように「１年生のことを考えて」行動することに高い意識をもっていました。

本校では、「あおぞらタイム」、あいさつ運動、運動会の演技種目等で異学年の交流を図る活動を取り入れています。異学年の交流にはどのようなよさがあるのでしょうか。

地域の方とお話をすると「昔は、子どもたち同士の中でいろいろな人間関係を学んでいたんだ」というようなことをお聞きします。今の子どもたちには、３つの「間」が不足しているといわれています。遊び場などの「空間」、習い事などで忙しく、自由になる「時間」、そのような要因から触れ合いが少なくなった「仲間」です。このような現状の子どもたちにとって異年齢での活動をすることにより、上の年齢の子どもが下の年齢の子どもの面倒を見るということが自然に行われていきます。

今回の遠足では５人程度のグループで２年生が無理なくリーダーシップを発揮できるようにしていました。同年齢の学級の中ではなかなかリーダーシップを発揮する機会が少ない子どもでもこのような場面では、自分のできることを一生懸命にしていきます。子どもたち一人ひとりの活躍できる場面を増やし、そのできたことを振り返り自己肯定感が高まるように教育活動を進めています。

異学年の交流では上の学年の子どもは、自分が我慢をしたり譲ったりしなくてはならないことも多く出てきます。自分をコントロールするという意味の「自律（じりつ）」へ向かう力も養っていると考えています。３年生の遠足でも見られた姿ですが、電車などの公共的な場所で一定の時間を黙って過ごすということも含まれます。自分がおしゃべりしたい、遊びたいという気持ちを抑えて電車に乗っていました。中には、座席を譲るなど周囲の状況にも目が向いている場面もありました。ご家庭でもお声掛けいただいている様子がうかがえた出来事でした。一方、下の学年の子どもにとっては、将来の自分の姿をそこに見出し、あこがれと親しみの気持ちをもって育っていきます。このようによい循環が生まれ、交流活動が続いていきます。

今後、各学年の遠足や体験学習等でどのような力を子どもたちに付けていきたいかを視点に行事の見直しをしていきます。その一つの視点として異学年の交流を柱として考えていきます。アンケートなどへの回答の際にぜひご意見をお聞かせください。